

氏名	三浦雅布
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 4377 号
学位授与の日付	平成 23 年 3 月 25 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科社会環境生命科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)

学位論文題目 Postmortem Changes in Myoglobin Content in Organs
(臓器中ミオグロビン含有量の死後変化)

論文審査委員 教授 佐々木順造 教授 竹居孝二 准教授 西田圭一郎

学位論文内容の要旨

血中及び臓器中ミオグロビン含有量の死後変化を動物実験によって調べた。血中ミオグロビン濃度は死亡直後から急激に上昇した。横紋筋中ミオグロビン含有量は死後 14 日目までは明らかな変化はなかった。肝臓、腎臓のミオグロビン含有量は死後 5 日目までは僅か、7 日目以降は明らかな上昇が認められたが、死亡直後に動静脈を結紮した腎臓では死後 5 日目まで上昇は見られなかった。甲状腺及び肺のミオグロビン含有量は、その対数値が死後の時間経過に従って 7 日目まで直線的に上昇した。甲状腺ミオグロビン含有量は 14 日目に横紋筋と同程度になった。死後に臓器中ミオグロビン含有量が上昇する原因として、血管内血液を介したものと、横紋筋からの直接の拡散が考えられた。甲状腺と肺におけるミオグロビン含有量は、死後経過時間推定の指標になり得ることが示唆された。

論文審査結果の要旨

本研究は、死後経過時間推定への一助として、野兎における血中及び臓器中のミオグロビン含有量の死後変化をエンザイムイムノアッセイにより、また、法医解剖 5 例におけるミオグロビンの甲状腺内への死後拡散について免疫組織化学的手法により検索したものである。血中ミオグロビン濃度は死亡直後から急激に上昇した。また、甲状腺及び肺のミオグロビン含有量は、その対数値が死後の時間経過に従って 7 日まで直線的に上昇し、甲状腺ミオグロビン含有量は 14 日目に横紋筋と同程度になった。横紋筋中のミオグロビン含有量は死後 14 日まで明らかな変化はなかった。甲状腺において、横紋筋に接した側にミオグロビンが、より強く染まり、拡散していることが明らかとなった。

これらの研究は、甲状腺および肺におけるミオグロビン含有量が死後経過時間推定の指標となる可能性に関して重要な知見を得たものとして、価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。